

令和5年8月9日

東員町議会

総務建設常任委員会委員長 大谷勝治 様

東員町議会

大崎昭一

報 告 書

研修期間	令和 5 年 8 月 1 日 (火) ～ 8 月 2 日 (水) 【2日間】
研修 (視察) 先	1 日目 京都府舞鶴市 2 日目 奈良県王寺町
目的 (テーマ等)	1 日目 舞鶴市における「meemo サービス～公共交通を補完する新しい移動サービスについて」 2 日目 グリーンスローモビリティについて
参加議員名 (複数の場合)	大谷勝治議員、片松雅弘議員、南部豊議員、山崎まゆみ議員、大崎昭一
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

研修概要、内容、所感

1日目 舞鶴市における「meemo サービス～公共交通を補完する新しい移動サービスについて」の研修概要

・舞鶴市の人口は平成20年時9万人から約1万3千減少して、令和5年4月1日現在76,898人。65歳以上は約2万5千人で、高齢化率32%です。

・舞鶴市は京都府における日本海側の重要拠点都市であるが、人口減少、高齢化が進み、人口密集地域と過疎地域という特性の中で、交通不便な地域の住民の生活交通の活性化を図ることが必要としています。第7次舞鶴市総合計画を策定し、「目指すべき将来のまちの姿」の中で、「住み続けたいまちを支える生活基盤づくり」をテーマにして、「市の交通公共交通ネットワーク体系を、①軸となる幹線、②幹線に通じる支線、③支線へのアクセス<meemo>、④ドアツードア輸送 に分類し、「住み続けたいと思えるまち、人が集う魅力あるまち」に鋭意努力をしています。

今回わが常任委員会は、③支線へのアクセス<meemo>について研修しました。

<内容>

meemo とは、地域共助型生活交通サービスの呼び名です。

舞鶴市と公共バス事業者の日本交通(株)、オムロンソーシアルソリューションズ(株)が2019年に包括連携協定を提携して2030年を見据えて、2022年6月から meemo を開始しました。

令和2～3年度の各3か月を実証実験として実証して令和4年6月から通年で継続運行中です。

運行地域は、公共バス、鉄道の不便な地域を特定して実施しています。実施方法は、会員方式として住民同士が送迎するとして料金無料、スマホアプリによる送迎マッチングサービスで、スマホを持っていない高齢者には無料貸与をしています。

周知啓発は、自治会回覧チラシ、会報誌、啓発のぼりを作成、事業報告会開催等を行っています。また、住民説明会、スマホ教室、アプリ体験会を行っています。利用度は月を追うごとに上昇しています。

<meemo>の課題と課題解決に向けたとり組みを位置づけ、地域運営組織「高野地域協議会」を設立し、自立した運営体制の構築を図ります。

これからの地域社会を維持するためには、住民同士のお互いの助け合い（共生社会の実現）であり、「大丈夫なうちに未来を見据えた対策を講じる」日常不断のこうした発想を基に、施策を進めていきます。との研修を受けました。

2日目 奈良県王寺町でのグリーンスローモビリティについての研修概要

王寺町は奈良県北西部に位置し奈良県と大阪を結ぶ交通の要衝地です。聖徳太子にまつわる伝説があり、名所旧跡の多い観光のまちでもあり、聖徳太子の愛犬との「雪丸」がマスコットです。人口は23年5月現在2万4千人です。

今回の視察は、王寺町美しヶ丘自治会が運営している「グリーンスローモビリティ（略称：グリスロ）です。

<内容>

王寺町美しが丘地区は丘陵地帯を住宅開発したところで坂道が多いという地形です。約1,400世帯、3,600人の人口です。

高齢化が進み、地区内の移動手段が課題でありました。解決したいとの思いから、自治会が主体となって、グリーンスローモビリティの運行を開始することになりました。

実施するにあたっては、王寺町、ヤマハ発動機(株)、千葉大学予防医学センターとよく話し合い、令和5年1月までを実証実験として運行し、今は、継続して運行しています。

車両はヤマハ発動機所有の7人乗り電動カートを王寺町がリース代を払い、自治会が無償で借りて運行しています。自賠責保険、車検代もリース料に含まれています。任意保険は自治会が加入し、事故対応は自治会が行います。これまで事故はありません。

利用料金は無料です。現在、運転手13名、サポーター17名。平均年齢70代前半で全員が自治会員、無償ボランティアで参加しています。自治会員に割り当てたり押し付けたりはしていません。

運行は1台の車両で、3ルートを決まった時間に循環するバス方式です。定員7人で、運転手とサポーターが一人乗るので、乗客は5人、定員オーバーになる場合はサポーターが下車、乗客で元気な人が歩いてもらうこととなります。バス停以外でも乗降可能です。時速19キロ以内でゆっくり走るので、車内は和気あいあい世間話で花が咲きます。

課題は、担い手をどうつなげていくか、車両購入などの費用は自治会が負担する能力はないので、町の積極的継続的支援が必要です。こうしたことを話し合わなければなりません。

<所感>

舞鶴市はmeemo方式、王寺町はスローモビリティ方式という形態の異なるものでしたが、自らのまちに適する方法を選択する努力を知ることができ、有意義でありました。共通するその原点は、住民・弱者への思いやる心の共有を土台として、住民の暮らしを支える移動手段・システムの構築であると確信しました。

本町でも免許返納者や交通弱者の移動手段の確保が急務の課題です。

自宅の玄関から目的地までの往來をきめ細かく応援する方法をしっかりと見定め、議会が行政へ問題提起、提言を急ぐ必要性を強く感じた研修になりました。